

公開質問書（18.08.11）回答

1．天竜川からの骨材購入のため、堤体工事完了までに余分に発生する費用総額を明らかにして下さい。

堤体工事に使用するコンクリート骨材については、原石山の岩種等により採取量の変更が生じ工事費が増減するため、現在、公表できるような精度でお答えが出来かねます。

2．7月6日ダム事務所で受けた説明によると、原石山からの骨材で作られたコンクリートでは水と空気による侵食に耐えられないので、表面から2mまでは天竜川の骨材を用いる事となったとのことでした。東海、東南海地震が同時にくるような事態が発生して堤体表面に亀裂が生じた場合、当然水圧によって水が内部に侵入し、コンクリートの劣化がおこる事が考えられますか如何ですか。

ご質問は7月6日の説明を正しく理解されていないようなので、改めて以下のとおり説明いたします。

太田川ダムのコンクリート骨材は、貯水池上流端に位置する原石山から砂質岩を主体とする原石を採取し、貯水地内に設けた骨材製造設備で、所要の粒度と品質を備えた粗骨材（粒径150～5mmの碎石）と細骨材（粒径5mm以下の砂）に調整して供給するものです。骨材製造設備の試運転において、製造した骨材の一部が貯蔵中に乾燥して割れるなどしたため、専門機関の意見を聞き、当該骨材で製造したコンクリートを用いて湿潤と乾燥を繰り返す試験を行ったところ、貞岩のひび割れ等が原因と考えられる強度の低下が見られたため、湿潤乾燥等の気象条件を受ける外部コンクリートの骨材について、より安全で長期にわたり安定した品質を確保するため購入骨材に変更しました。

地震時に亀裂が発生し、亀裂から浸入した水によりコンクリートが劣化することを危惧されているようですが、原石山の骨材で製造するコンクリートは湿潤状態では安定しており、乾燥湿潤が繰り返される環境で劣化が認められたものです。よって、湿潤状態のみとなる水の浸透による劣化は生じないものと考えております。また、近年の地震の調査報告でも重力式コンクリートダムでは、ダム本体に漏水の原因となるような亀裂の発生は報告されていません。